

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7054番地		
自己評価作成日	平成29年7月7日	評価結果市町村受理日	平成29年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 29年 9月 6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域の中で、家庭的な支援と利用者様の「個」を大切にに取り組んでいる。また、母体法人の他職種との連携強化が図れており、施設に来所しての助言、指導も頂けており、利用者様、ご家族様からは大変安心して頂いている。また、年2回の母体法人での地域包括ケアシステム研修を通じて、半島内の介護保険施設や事業所、包括支援センター、病院、ろうけん、広域圏等に案内参加を頂き、施設の説明、見学会なども行っており、地域との連携共有の強化を図っている。建地は、商店街や公園などが近いため、郊外へもでかけやすく交通の利便性も高い。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「馴染みのある地域の中で、老いても、障害を持って、自分らしく暮らせるように」の理念を基に、申し送り時には職員で唱和し、玄関にも理念を掲げられている。入居者がこれまでの生活で大事にされてきたことを継続できるような支援が行われており、家族の一員として本人に寄り添う事で日々の生活を安心して送れるよう努力されている姿が窺える。町内会に加入し、町内の行事には声掛けがあり、精霊流しや神社の秋祭りなどの催しには職員とともに入居者が参加するなどのほか、近隣住民が自宅で咲いた花やホームに必要な新聞紙等を持って訪れるなど、地域住民との信頼関係を構築されている。中学校の職場体験や介護関係研修の実習生受け入れのほか、地域包括支援センターからの依頼で主婦を対象にしたホーム見学の受け入れも行われている。ホームの母体が医療機関ということもあり、緊急時の対応等においても家族の安心感に繋がっていることが窺える。隣接している系列のグループホームとの行き来があり、職員や入居者が互いに関わりを持たれていることが窺える。ホームが持つ認知症介護の専門性を更に向上させていく事に大きな期待ができるホームといえる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲げている。また、毎日の申し送り時の唱和も継続し意識付けている	基本理念を唱和し、敬愛と奉仕の精神・生きがいと潤いのある生活を大切に、全職員は共通した意識で日々の業務に臨み、入居者が安心して暮らせる場所作りに努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成29年7月7日	町内会の加入にて、回覧板や町内会長様、民生委員様の協力を得て、交流ができています	運営推進会議メンバーの町内会長や民生委員の声掛けにて町内で開催される精霊流しや神社の秋祭り等の行事に入居者と職員は参加されている。大学生のボランティア・中学校の職場体験・キャラバンメイト養成の実習受入れ・地域包括支援センターからの声掛けで主婦対象の見学等を受入れている。ホームで餅つきをした際には、近隣住民に配り、近隣住民が自宅で咲いた花や新聞紙を持ってホームを訪れる等の交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	島原病院と母体法人の合同取り組みにて包括ケアシステム研修会で、施設の説明、見学会も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の、各々の立場から意見交換、アドバイスがあり、また、母体法人の他職種からも講話の時間を取り入れ活かしている	運営推進会議は、町内会会長・民生委員・島原市職員・居宅介護支援事業所職員・家族の会・ホーム職員で構成されており、必要に応じた内容の報告や議題について意見交換等がなされている。避難訓練の前にはその旨の報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は下より、介護保険課様へも必要に応じて、電話等でもアドバイス、相談への対応も頂いている	市の職員が運営推進会議メンバーである。10月からは市の職員が入居者を対象に月1回来所し、入居者の相談を受けることを実施する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会、母体法人の勉強会にも参加し、全職員が理解共有できており、取り組みができている	身体拘束時の同意書は作成されている。現在、身体拘束の対処を行っている入居者はおらず、今後も行わない姿勢であることが窺える。全職員が身体拘束の研修を受け、身体拘束について理解されていることが窺える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等にも、参加し全職員が取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人の勉強会やグループホーム連絡協議会の研修にも参加し、意識付けできている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、施設見学と十分な説明を行い、同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、投函頂いたことがなく、担当者会議や運営推進会議、面会時に対応し、反映させている	家族の面会時に意見や要望等の聞き取り、日頃の入居者の様子を報告し、その後の支援に反映させるよう努められている。家族も安心して思いを伝える事ができ、安心感を得ていることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時やスタッフ会議の中で行っている	スタッフ会議時に、レクリエーション、フロアでの物の配置、記録の工夫などといった提案や意見を出し合っていることが窺え、職員が意見を出し易いような雰囲気、職員の意見を積極的に取り入れるなど、職員意見を反映する体制づくりができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	院内LANを利用して管理把握が出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の年間予定にて参加できており、外部研修にも相談し、参加が出来ている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島連絡協議会、島原支部連絡協議会を通じ交流もできており、質の向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問や施設見学時に面談を行い関係作りにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に訪問や施設見学時に面談を行い関係作りにつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族または担当介護支援専門員よりアセスメント、聞き取りを行い対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念の下、家族の一員として支援に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話、手紙等を利用する。また、共に外出して頂き、外食や墓参り等と関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に友人、これまで住んでいた町内会の方等の面会もあり関係の継続はできている。また、冠婚葬祭にも参加できている	入居者の友人の訪問があったり、冠婚葬祭等には送迎の支援を行う等、以前からの繋がりの継続を大切にできる支援が窺える。入居者の希望により、墓参り等の外出支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様全員で食卓を囲み、食事やレクリエーション等の会話や触れ合う時間が作られている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行ったり、相談を受ければ傾聴し対応に繋げている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、要望に沿って対応はしているが、対応困難時は、ご家族様の支援も受けている	入居者の意向や発言、失語症がある入居者への対応で、筆談や表情からの読み取るよう努められ、その情報は申し送りノートに記録して職員間で情報を共有し、支援の実践に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様、担当介護支援専門員等からの聞き取りにて把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録等も、記録確認し、個々に把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や毎月行うモニタリングを実施し、反映させている	職員の担当制にてモニタリングの実施及び毎月モニタリング会議を実施し、必要に応じて短期目標を立て直しを行い、介護認定調査の結果により担当者会議で話し合い、内容の変更等を担当者がケアプランに反映し作成されている。	日々の気づきについては申し送りノートを活用されているが、すぐにメモを取れない為忘れてしまう事もあるようなので、今後、申し送り内容を確実に情報共有できるよう例えば小さなメモ帳やメモできる大きさの付箋等を身に付けるなど即座にメモができるような工夫を検討することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に短期目標に沿ったケア内容の評価を日々、記録することで職員間の共有にもつながりスタッフ会議でも見直し出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の他職種からのアドバイスや協力支援も受けながら取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会と共に市民清掃、祭りなどの行事にも参加し、選挙なども公民館にて投票をおこなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った医療をうけている。また、母体法人のかかりつけは訪問診療の支援も受けられ、待ち時間等もなく大変喜ばれている	母体が医療機関であり、2名の医師による往診を受けられている。他科への受診は職員が行い、入居者によっては家族対応にて受診されている。母体が医療機関である事に家族も安心感を持たれていることが窺える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護はもちろんだが、常に母体法人の看護師に相談支援も受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、ご家族、主治医と相談し連携を図り、早期退院へとつなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時に、ご本人、ご家族の意向を確認している	本人・家族の意向を汲み取る姿勢が窺え、経口摂取ができない状態が長期に及び、経管栄養やIVH等の設置が必要となれば当ホームでの対応は困難である為、母体の医療施設の医師による判断で医療施設への受け入れを依頼する体制である。その際の説明は入居時に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成していると共に、勉強会にも参加しており、救急蘇生法、AED操作法等、学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成しており、施設での訓練以外でも、母体法人の訓練にも参加している。また地元消防団との協力体制も築いている	災害対策マニュアルが整備されている。同母体併設ホームと合同での避難訓練が実施されている。また、母体施設の訓練にも職員が交代で参加され、地元消防団の協力体制を築くなど、有事の際の協力体制が整っている。	避難訓練後の反省内容と避難訓練時の写真を記録として残しておく事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づき、保護に努めている	全職員が理念を基に職務にあたるよう努められており、入居者にとって安心・安全な暮らしができるよう支援に努められている。また、職員は日常生活の中での入居者へのプライバシー保護は当然である事を意識付けされていることが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で疎通困難な利用者様にはジェスチャーや筆談または、表情で察知するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態では、直ぐに対応や希望に添えない事もあるが、できるだけご本人の意に沿えるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、化粧、散髪など、出来る限り、ご本人の希望を優先し支援に心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に施行調査を行い、出来る方は一緒に調理にも参加してもらっている	食材は、母体法人で一括購入し、各施設に分配されている。母体の管理栄養士が1週間分の献立表を作成し、当ホームで調理されている。また、アレンジした食事を作って提供される事もある。以前は食事中にテレビをつけていたとことが、食事を楽しみ、集中して食事ができるよう現在は音楽を聴きながら食事を味わえるようにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士が作成したメニューにて食事も提供し、相談支援も頂いている。また食事以外での水分補給も気候や体調に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけと実施を行い、義歯消毒も毎日行うように努めている。また、必要に応じて協力歯科医にアドバイスを頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握し、トイレ誘導、声かけを行っている	職員は各入居者の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレにて排泄するよう支援されている。現在、夜間や身体状況により、排尿のみポータブルトイレを使用する入居者もいるが、基本的にトイレにて排泄する支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の把握にて、適度の水分補給の促しや腹部マッサージ等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は定めているが、希望や必要に応じて対応している。また、ゆず風呂、菖蒲湯などの季節感も楽しみの支援も行っている	入浴時間や順番・湯温の調整は各入居者のパターンや希望により臨機応変に対応されている。季節感を味わえるよう柚子湯や菖蒲湯の入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、個々に合わせている。不安のある方には、職員の側で落ち着いて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアル作成をしており、基づいて支援し、確認ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続支援やレクリエーションにて気分転換も図り、出来る事を見つけ張り合いにもつながっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物にも希望で出かけ、地域のイベントにも参加できるよう支援している	全入居者が何らかの外出ができています。地域の精霊流しや秋祭り、高校生の合唱発表会等に参加したり、職員と一緒に買い物に出かけ、自分の欲しいものを購入するなど入居者のいきいきとした顔が見受けられ、職員も一緒に楽しむ事ができています。全入居者を外出支援する事に拘りを持って支援されており、家族も喜ばれていることが窺える。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望で管理されている方もあり管理できない利用者様には自分で選ぶ楽しみはもって頂くよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等の支援が来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関フロアにも椅子を設置し、寛ぎの場となっており、居間の掘炬燵では、ゆっくり寝て過ごされる姿が見られる。居室入口にはご本人の写真を入れ季節毎の飾りつけを工夫している	廊下には光を取り込む天窓を設え、日の光が廊下を通る入居者の足元を照らしている。狭いながらもテーブルの配置の工夫で入居者の妨げにならない動線の確保ができています。入居者が寛いで職員との会話をしながら思いおもいに時間を過ごされている。気になるような臭い等もなく、職員は臭いに関しての意識が高いことが窺える。季節に応じた飾り付けがある廊下は一層明るい雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースの食堂や居間、玄関フロアは憩いの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し馴染みのある家具や仏壇等の持ち込みにて工夫している	居室は全室個性豊かであり、ベッドの向きや家具の配置は、本人や家族に任せられている。また、身体状況を考慮した配置であることが窺える。馴染みの家具や仏壇を置いて整理整頓がなされた部屋は家庭的な雰囲気であり、入居者がゆとりのある生活を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて廊下には手すりを設置しており、玄関等にはスロープにて対応している。ロフトがあり、隣設の事業所との交流もしやすい		